

ハンドブック ワンポイント レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

先日の試合で後味の悪い試合がありました。
それは、私のペアがサーブをしてセンターラインに落ち、インかフォルトか微妙でしたが審判が何も言わないのでラリーが続き私たちがポイントを取った後で、今はフォルトだったとクレームがつき、やり直しになったのです。やり直して結局私たちがポイントを取ったのですが、正審が速やかにコールしない場合で、ラリーがつづいたときはインとみなすのではないのでしょうか？ その後も、同じ試合の中で、バックラインにインかアウトかあやしいボールがあったのですが、やっぱりラリーが続いた後で私たちがポイントを取った後、アウトのクレームがつき、跡が残っているということで、逆にポイントを失いました。アウトのコールがなくラリーが続いたのに、なにか納得がいきません。ボール一個アウトの跡はありましたがバックラインのラリーでそれほど跡がつくものかというような跡でした。相手はそのアウトの跡を指して抗議したのですが、後衛は足元ほどボールを見なければ打てないし、ラリーが続いたら、ましてや本当にその跡が私の打った跡が解らないのではないかと思います。疑わしきはインではないですか？ 速やかに、コールをせず、ポイントが決まった後で抗議を受けて判断を変える正審にも違和感を覚えますし、抗議する選手にもなんか感じの悪さが残りました。ルール上どうなのでしょう？

Answer

アンパイヤーは、判定は公平に行うとともに、時機を失しないようにすること。ただし、イン、アウトまたはフォルトであるか確信が持てない場合は、ボールの痕跡を確かめてから判断することが出来る。

ご質問された方は審判員資格をお持ちでしょうか。審判員資格をお持ちであれば、質問をされる前にハンドブックを一読されると、前半のような質問はされないとします。と申しますのはルールを理解されていない方の質問をアンパイヤーは受け入れ、それに賛同されたのは貴方です。又用語について残念ながら多くの間違い（バックライン等）がありますので一言ご注意を申し上げます。

さて、今回のご質問のケースは時に問題になりますが、前半の「フォルトになりやり直した」ということはルール上あり得ません。今回のサーブの判定では、確認の結果、フォルト（第1サーブ時）と判定したならば、第2サーブを行なうのが正しい判定です。ところで「やり直し」はレットを意味しており誤った判定です。そこで、第2サーブであったならば、ダブルフォルトになりますね。

また、ベースラインの判定についても、アンパイヤーはイン、アウトの判定がつかないまま、後で確認しようと思ってプレーは続けさせたいと思います。プレーが終わって確認の結果アウトと判定がされた場合、「アウト」となります。ただ、アウトの跡を指して質問をされたようですが、この行為がイエローカードに該当したかどうかは定かではありません。

ここで貴方がアンパイヤーをしていたらどのように判定されたでしょうか。審判規則第12条（判定の確認）「アンパイヤーは自己の判定区分のボールの落下点が、イン、アウト又はフォルトであるか確信が持てない場合は、ボールの落下点の痕跡を確かめてから判断することが出来る。正審は副審に痕跡の確認を依頼し、または副審が判断に迷う場合は、正審が審判台から降りて自ら痕跡を確かめて判断することが出来る。」を適用して、ラリーを継続させて、後から痕跡を確かめて判定をされると思います。

今回のようなケースはよくありますが、相手の質問に対して、ルール上正しい内容であるかどうか判断出来れば、アンパイヤーにルール上質問は間違いですと言えるはずですが、しかし、質問内容が正しければやむを得なく受け入れなければなりません。

普段何気なく持ち合わせている、ハンドブックにはいろいろなケースについて記載してありますので何回も読みなおして、ご理解した上でプレーヤー、アンパイヤーとしてその任務を務めたいものです。



【関連規則】

競技規則第40条（異議の申立て等の禁止）2	審判規則第14条（再判定）
審判規則第12条（判定の確認）	審判規則第7条（アンパイヤーの心得）
審判規則第6条（アンパイヤーの任務）	